

令和6年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名: 大島支庁農政普及課

課題名① 新興共販産地「喜界町パッショングループ」の挑戦 ~発展の土台づくり~						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの意見・提言	意見・提言等に対する改善策や普及指導計画への反映等
		適当	概ね適當	要改善		
課題の設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	2	2			
対象の選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	3	1			
活動体制・活動方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	3	1		なし	
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	4				
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	3	1			
活動の成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3	1			
活動の波及性と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	1	3			
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	2	2			

令和6年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 大島支庁農政普及課

課題名① 新興共販産地「喜界町パッショングルーツ」の挑戦 ~発展の土台づくり~							
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの意見・提言	意見・提言等に対する改善策や普及指導計画への反映等	
		適当	概ね適当	要改善			
課題の設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	6	3		<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税に直接加えることができ、パッケージにしたこと等も地域課題の改善にもつながる ・課題に対して早急な改善がされている(組織再編等) ・多収量が可能であれば必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本品目は、高価な施設を導入した上で経営品目としては、現状の収量及び単価では厳しい状況である。施設の2回転などフル活用できる体制を支援・推進していく。 	
対象の選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	5	4		<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫対策や気候変動への対応についての課題 ・先進地等の事例をうまく生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培中の異常気象対策は、いまだ解決に至っていない。先進地や関係機関と連携しながら、早急の解決に向けて取り組んでいく(技術講習・研修会開催として普及計画に位置づけ)。 	
活動体制・活動方法	③関係機関と連携して活動しているか	7	2		<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有方法の負担が軽く、継続して取り組める ・県、行政、JAとの連携がとれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関とは引き続き密に連携を取りながら、諸活動に取り組む。 	
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	7	2		<ul style="list-style-type: none"> ・作物選定についても、新たな作物でなく既存の作物で選定で効果的であった。 ・測定器等の低コストに連携して取り組まれていることがうかがわれる。 		
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	6	3		<ul style="list-style-type: none"> ・JA共販体制に取り組んでもらう。JA主体生産者の組織充実 ・関係機関と連携し、効果的な活動が行われている。 		
活動の成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	6	2		<ul style="list-style-type: none"> ・地元の直売所やイベント、都市部へオンライン販売などをとおして販路が拡大されており、観光客向けのお土産品としての開発も進行している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・販路拡大対策については、役場の商工観光部署やJAなど関係機関と連携しながら、解決に向けて取り組んでいく。 	
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	6	2		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な方法を提案してチェックしながら改善できている。 		
活動の波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	5	4		<ul style="list-style-type: none"> ・販売促進活動の充実を図るべき 		
	⑨結果が十分でないものは今後の対策を考えられているか	4	5		<ul style="list-style-type: none"> ・販路拡大対策については、役場の商工観光部署やJAなど関係機関と連携しながら、解決に向けて取り組んでいく。 		

新興共販産地 「喜界町パッションフルーツ」の挑戦 ～発展の土台づくり～

現状及び課題

◆ 現 状

- ・ 喜界町のパッションフルーツはH29年までごく小規模個販中心だったが、R元年より産地化の気運が高まった新興産地である。地域にあった栽培技術の確立が急がれる課題であり、R2年度から普及計画に位置づけた。

◆ 課 題

- ・ 産地支援体制の強化
- ・ 生産性向上・経営安定
- ・ 新規栽培者の支援

解決のための活動内容

◆ 産地支援体制の強化

- ・ 年1回の産地育成検討会（SPDCAサイクル実現）+毎月の技連会果樹チーム会

◆ 生産性向上・経営安定

- ・ 農家個々の栽培実態及び研究機関等による既知情報の把握（R4～）
- ・ 低コストICT機器を活用した高単収農家の栽培実態調査（R3～）
- ・ 高収益実現のための栽培技術情報提供（栽培講習会やLINEグループを活用）

◆ 新規栽培者の支援

- ・ 毎月の技連会担い手チーム会等で支援方針や改善策を協議
- ・ 関係機関で役割分担し、栽培技術、資金等を支援

活動の成果

◆ 栽培者数増加 H30：7戸 → R5：21戸

◆ 栽培面積増加 H30：0.5ha → R5：1.05ha (H30比210%)

◆ 生産量増加 H30：5t → R5：16.5t (H30比330%)

◆ 単収向上 地域全体 R元：1,000kg → R5：1,571kg/1,000m² (H30比157%) モデル農家2,500kg以上 R5：3戸

※課題解決機能を発揮できる支援体制を整備し、安定的に発展できる土台ができた。
産地収量、単収(平均・モデル共)が順調に伸びている。

今後の対応

◆ 産地支援体制のさらなる最適化

◆ 様々な機会を生かした認知度向上

◆ 経営体の収益力アップ 安定生産技術の習得、高単収・省力化の実現 販売戦略の検討支援、経営改善支援

新興共販产地 「喜界町パッションフルーツ」の挑戦 ～発展の土台づくり～



大島支庁農政普及課喜界町駐在



普及活動の課題設定と取組内容



3

本取組の背景



【普及の取組に至るまで】

ウイルスフリー苗供給（平成初頭～） 栽培は小規模個販のみ

JJAまみ喜界 共選共販開始（H30～）

町研修生向け品目に位置づけ（R元～）

要請対応期 支援初期 支援加速期

普及指導計画に位置づけ（R2～）

新仕立て導入 モデル単収（/1,000m²）
2,500kg → 2,880kg

<平成30年実績>

- ✓ 栽培者数 7戸
- ✓ 栽培面積 0.5ha
- ✓ 生産量 5t
- ✓ 単 収 1,000kg /1,000m²

<目標>

H2地域果樹产地構造改革計画

- ✓ 栽培面積（R7）1.7ha
- ✓ 生産量（R7）12t

普及指導計画

- ✓ モデル単収（R5）2,880kg /1,000m²

2

普及活動の内容

1 支援初期(R2~3)

「つり上げ仕立て」 栽培技術の早期習得



4

1

2

```

graph TD
    A[普及活動の内容～1. 支援初期～] --> B[「つり上げ仕立て」栽培技術の早期習得]
    B --> C[生産者の声]
    C --> D[調査(R2~3)]
    C --> E[講習会開催・栽培事例資料の配付]
    C --> F[町内優良園地の管理方法紹介]
    D --> G[「つり下げ」と比較して]
    G --> H[✓換算収量13%増。換算単収2,400kg/1,000m2]
    G --> I[✓収穫開始遅い。食味は同等。]
    E --> J[普及支援初期に、基本的な「つり上げ仕立て」栽培技術を定着できた。]
    F --> K[農業開発総合センター]
  
```

普及活動の内容～1. 支援初期～

「つり上げ仕立て」栽培技術の早期習得

生産者の声

- 視察先の他産地/バッジョンが素晴らしい！
- 喜界町でも「つり上げ仕立て」に取り組んでみよう！

調査(R2~3)

「つり上げ仕立て」の特性

- 急ぎ、既存情報の収集と提供
- 他産地の情報
- 普及に移す研究成果
(農業開発総合センター)

「つり下げ」と比較して

- ✓ 換算収量13%増。換算単収2,400kg/1,000m²
- ✓ 収穫開始遅い。食味は同等。

講習会開催・栽培事例資料の配付

町内優良園地の管理方法紹介

✓ 普及支援初期に、基本的な「つり上げ仕立て」栽培技術を定着できた。

農業開発総合センター

農地の盛り上がり

普及活動の内容

2. 支援加速期(R4~6)

(1) 安定して課題解決機能を発揮できる支援体制づくり

普及活動の内容 ~ 2. 支援加速期 ~

(1) 安定して課題解決機能を発揮できる支援体制づくり

□ 「Check/Action」のための新たな産地支援協議の枠組み

R4年度新設

喜界町パッションフルーツ産地育成検討会

R4年度新設

喜界町技連会園芸部会
＜果樹チーム会＞

農家代表

JAあまみ
喜界

- ✓ 流通・販売・販促
- ✓ 生産者との連絡調整
- ✓ 補助申請
- ✓ 研修生支援
- ✓ 技連会奉行局

喜界町

- ✓ 情報発信 (講習会、SNS等)
- ✓ 実証調査
- ✓ 実証展示活動

普及

県園芸振興協議会
大島支部

県農業開発総合センター大島支場

技術支援

普及活動の内容 ~ 2. 支援加速期 ~
(1) 安定して課題解決機能を発揮できる支援体制づくり

□ 強化された協議の枠組みを核に、SPDCAサイクルを実現する活動体制

● 徹底した実態把握
・個々の管理・生育状況
・実証・設置
・他地域や研究機関等の情報収集

● 情報の共有
・取組計画の検討

See Plan Do Action/Check

毎月：町技連会 果樹チーム会
9～10月：産地育成検討会

講習会やLINEグループからの情報発信
実証・展示・設置

<産地育成検討会>
1年間の取組を総括・評価し、次の1年間の計画を検討。
・ほ場管理・生産販売・実績は実績など全情報を整理し、共有。

9

普及活動の内容 ~ 2. 支援加速期 ~
(2)-1 多収栽培技術の習得

See(1) 調査 (R4)
喜界町つり上げ栽培に適する条件
町内生産者の作付・施肥・着果状況・収量等の調査を実施。

左図：施肥量 (kg/ha) vs 定植日 (月/日)
 $R^2 = 0.5176$

右図：着果数 (本) vs 着果母株数 (本/10a)
 $R^2 = 0.7281$

とある生産者の声
土壌pH計でかん水開始のタイミングを判断している。
今の判断基準は適切?

詳しく調査!
新たな発見! がついた!

定植日が早い方が単収が高い傾向
密植で結果母株数が多いと着果数減少
土壌はpH7以上(8以上もあり)がほとんどで、作土が浅い

次スライドへ 11

普及活動の内容

2. 支援加速期 (R4～6)

(2) 多収栽培技術の習得と経営安定に向けた取組

取組開始時 (H30.6)
支援初期 (R2～3)
支援加速期 (R4～6)
「つり上げ栽培」実証技術の実証と経営安定に向けた取組
新規取組
(1) 安定して満足度高い技術を実証できる支援体制づくり
・技術検証
・多収栽培技術の実証
・経営支援に向けた取組
・技術支援
(2) 新規取組
・栽培技術の実証
・コードノート検証
・技術検証

10

普及活動の内容 ~ 2. 支援加速期 ~
(2)-1 多収栽培技術の習得

See(2) 調査 (R4～5)
高単収農家の土壌水分管理実態
R3年度にモニタリング機器を試験導入
機器代: 201千円、通信費: 3千円/月は高い!
工夫!

低コストICT機器をDIYして活用
土壌水分量測定に特化させ、機器代30千円

单収2.9t/ha達成者の栽培期間中(12～6月)の時刻別かん水量
かん水開始は、4月までpF2.2、5月からpF1.9
この管理では、まだ萎凋果発生
改善策の検討と実証
さらに改良した便携かん水管理事例の作成

12月は下旬に1回、2月までは10日に1回程度、3月以降は10日に2～3回

次スライドへ 12

普及活動の内容 ~ 2. 支援加速期 ~
(2)-1 多収栽培技術の習得

情報の整理・共有 (果樹チーム会)

- 調査で得られた
高単収実現のための現場事例
(栽植様式、土壌水分管理など)
- 他産地等の情報

講習会開催・LINEグループへの情報発信

✓ 栽培技術をアップデート！高度な管理技術を習得！単収アップ！
(定植時期、結果枝の仕立て方、適切な灌水方法、病害虫防除)

✓ モデル单収 R5年度(目標)2,880kg以上を達成！

13

普及活動の内容 ~ 2. 支援加速期 ~
(2)-2 経営安定に向けた取組

課題への対応 ① 作業が競合しない組合せ品目の確認と導入推進

パッションフルーツ栽培との組合せ品目の検討

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
ハウスは +露地品目	ハウス	定植			パッションフルーツ		繁忙期		収穫			
サトウキビ	●	セカバオチャ(即ち)				△	セカバオチャ(既成)			△	△	△
たんぽん	○	△						収穫	剪定			
クラジミカン								収穫				
ハウスを 最大限活用 (年2回)	ハウス	定植	秋冬季品目 (メロンなど)	定植	パッションフルーツ		繁忙期		収穫			
気象	○	△	台風シーズン							台風シーズン		

□ パッション栽培ハウス以外に、露地畑を確保できればかぼちゃ、コマ、クラジミカンなど、確保困難ならメロンなど秋冬で完結する品目が適切。

15

普及活動の内容 ~ 2. 支援加速期 ~
(2)-2 経営安定に向けた取組

生産者の声

調査(R5) 喜界町の実態に即した農畜産経営指標の作成 「つり上げ仕立て」労働生産性の実態把握

⇒ 大島支庁R3作成経営指標と、喜界町内聞き取り結果を基に作成

「つり上げ仕立て」栽培は作業が多く、面積拡大は難しい!
パッションは儲からない！

パッションだけでは町の所得目標に届かない

栽培面積を増やしたいが無理?
3月は9.4時間労働/日。

□ 経営安定には、他品目との複合経営、生産性向上（省力化や単価アップ）が必要！

課題 整理

- ①作業が競合しない組合せ品目の確認と導入推進
- ②作業の省力化（3月以降の芽かき、結果枝誘引など）
- ③共販単価の向上
- ④パソコン簿記帳の推進

14

普及活動の内容 ~ 2. 支援加速期 ~
(2)-2 経営安定に向けた取組

調査(R5) 喜界町の実態に即した農畜産経営指標の作成 喜界町基本構想を満たす営農類型の作成

<パッション試算条件>

- ・つり上げ仕立て
- ・年1回定植
- ・クロマリハナバチ交配
- ・出荷は全量JA共販
- ・単収2,500kg×単価1,258円 (R4共販平均)

農業経営シミュレーションファイル「のうけいプラン」を作成し、町基本構想を満たす組合せを試算。

▷ 労働力：夫婦2人、年間農業所得：450万円

⇒ 早熟かぼちゃ十抑制かぼちゃ+パッションフルーツ

引者継ぎクラジミカンやメロンも検討

生産額(万円)	規格	単収(kg/1ha)	生産量(kg)	単価(円)	生産額(万円)
13,116,933					
早熟かぼちゃ	220kg	1,095.4t	23,118kg	266	6,984,552
抑制かぼちゃ	80kg	856.0t	6,860kg	300	2,328,294
パッションフルーツ	5kg	2,500kg	1,250kg	1,420	1,804,087
合計	305ha				

労働時間

分担時間(標準はお盆時間)

定期労働時間 3,220時間
定期労働人 1,450時間
定期雇用 1,450時間
臨時雇用

16

普及活動の内容 ~ 2. 支援加速期 ~ (2)-2 経営安定に向けた取組

課題への対応 ② 作業の省力化 (3月以降の芽かき、結果枝誘引など)

「つり上げ仕立て」のイメージ
「棚仕立て」のイメージ

- 生産者の声
 - 「つり上げ仕立て」の作業は適期に行わないと収量減！
 - でも手が回らない！
 - 「つり下げ仕立て」は手はかからないが収量が伸びにくい...
- 普及
 - 色々調べてもなかなか解決の糸口が見えない！
 - 作業時間が少ない「つり下げ」と高収量の「つり上げ」の中間にいる「棚仕立て」をやってみよう
 - 一緒に検証！
- 生産者
 - 「つり上げ仕立て」の作業は適期に行わないと収量減！
 - 「つり下げ仕立て」は手はかからないが収量が伸びにくい...
 - 一緒に検証！

17

普及活動の内容 ~ 2. 支援加速期 ~ (2)-2 経営安定に向けた取組

課題への対応 ③ 共販単価の向上

事業を活用した販促活動の充実 (R5～希少性果物販売促進活動支援事業)
JAの価格交渉力アップ、ふるさと納税の取扱推進

JAの価格交渉力アップ、ふるさと納税の取扱推進

✓ 共販単価(/kg)
R4: 1,258円 ⇒ R5: 1,347円 ⇒ R6: 1,631円

19

普及活動の内容 ~ 2. 支援加速期 ~ (2)-2 経営安定に向けた取組

課題への対応 ④ パソコン簿記記帳の推進

調査 (R6) ~省力化と高品質果実生産の両立を目指して~ 「棚仕立て」の検証

仕立て方法が労働時間に及ぼす影響
仕立て方法が階級構成に及ぼす影響

生産者の声

- 繁忙期の労働時間が1/3に
- L以上率が2倍以上に(75%)
- その他、棚仕立ての良い点
 - 着色が早い
 - 玉搾りが良い
 - 着色ムラ小さい
- 改善が必要な点
 - 上向き作業がキツい

✓ 生産性を把握し、経営安定のための課題整理を行った。
✓ 農家の省力化栽培や品目組合せ経営が増加中。
(R7年産 棚仕立て:3戸、メロン+パッション:3戸など)

18

普及活動の内容 ~ 2. 支援加速期 ~ (2)-2 経営安定に向けた取組

課題への対応 ④ パソコン簿記記帳の推進

事の発端はトマト農家の...
なるほど...

J A

- 協力OK!
- 取り組みのイメージ

販売代金精算通知書 (さとうきび、青豆、野菜、果樹など)
精算金額、控除明細はExcelで出力可能

農協での購買 (送り状兼領収書)
精算取引はExcelで出力可能

ソリマチで取り可能なデータに変換
入力も簡単

20

普及活動の内容～2. 支援加速期～

(2)-2 経営安定に向けた取組



調査 (R5)

喜界町の実態に即した農高産経営指標の作成
JA取引データの簿記ソフト向け変換ファイル作成

- 作成は難航！
 - 手順が煩雑で使い勝手悪い
 - ファイルは重すぎて動かない
- 処理自動化のためのExcelマクロを、
インターネットAIサービスに作って
もらい、完成。



ChatGPT

- JA取引データ約4,000
仕証を、ワンクリック
約10秒で変換し、
簿記ソフトへ取り込み
可能！

✓ R6年末のバッショングルーツ栽培者の活用: 1戸(見込み)
(余談、その他品目にも拡大(トマト)戸済、さとうきび(1戸見込み)



```

graph LR
    A[説明開始時  
(H30.6)] --> B[支援初期  
(R2～9)]
    B --> C[「つり上げ立て」  
栽培技術の早期習得]
    C --> D[栽培技術]
    D --> E[支援加速期  
(R4～6)]
    E --> F[（1）安定して課題解決機能を実現できる支援体制を確立するための取組  
（2）多い栽培技術の習得と経営安定期向むけ助成  
は新規支援]
    F --> G[（3）新規栽培者  
増加に向けた支援  
農業生産への適応  
ヨーロッパへの販路]
  
```

普及活動の内容

2. 支援加速期(R4~6)

(3) 新規栽培者増加に向けた支援

普及活動の成果						
R2普及指導計画ヘッジションフルーツ課題位置づけ以降の流れ（概略）						
		年度				
		H30	R1	R2	R3	R4
産地の動き		JA共選販売開始				
		町新規就農者向け研修品目に位差づけ				
普及活動	普及計画	要請対応期		支援初期		支援加速期
		「つり上げ仕立て」技術の導入を急ぐ推進		・東地支援支権体制の強化 ・収益性向上と経営安定化		
		つり上げ導入	モルタル収穫量 2,500kg	目標額 2,800万円		
	CHECK ↓ ACTION (PLAN)	産地支援体制の強化 ○町技術会議 園芸チーム会 ○町地質成績討会				
		●農地での「つり上げ」特性評価	●高収農家の栽培実態調査 ●労働生産性特性調査 ●「棚仕立て」検証			
	SEE ↓ PLAN	○栽培技術講習会・グループLINEによる情報提供				
		先進地研修 ○町農業支援センター研修生へのヘッジション栽培支援 ○電気機器の活用（阪辰 ハウス建設）	●農業振興事業の活用			
	DO ↓ 支援活動					

普及活動の成果					
注:赤字は当初の目標値達成 下段の%表示は平成30年比					
年度	H30	目標	R3	R5	R6
栽培者 数	(戸) 7	-	21 300%	21 300%	19 271%
栽培 面積	(ha) 0.50	1.70 R7年度に	1.10 220%	1.05 210%	1.12 224%
生産量	(t・)	5.0 R7年度に	12.0 200%	16.5 330%	14.0 280%
平均 単収	(kg/ 1,000m ²) 1,000	-	909 91%	1,571 157%	1,247 125%
モデル 単収	(kg/ 1,000m ²) -	2,880 R5年度に	2,934	2,473	
単収2,500kg以上	0	-	-	3	0
研修後 栽培者	(人)	-	3	3	3
その他					

* 農業機械
の活用
・ 農専門部会

▶ ✓ 新興共販産地において、課題解決機能を発揮できる支援体制を整備し、安定的に発展できる土台ができた。
 ✓ 産地生産量、単収(平均・モデル共)が順調に伸びている。

25

今後の普及活動の課題					
1. 産地支援体制のさらなる最適化					
(1)チーム会、産地育成検討会でのCheck機能発揮					
(2)新規栽培者・就農者支援の充実					
<ul style="list-style-type: none"> 充分な所得実現に向けた支援・助言 <ul style="list-style-type: none"> ▶ ほ場確保(面積、立地、組合せ品目など) ▶ より実践的な技術支援(見て考える機会の提供) ▶ 資金相談 					
					
2. 収益力アップ					
<ul style="list-style-type: none"> 気象環境等の変化に強い栽培法 組合せ品目の導入推進 生産性の高い栽培法 重点対象者への個別カウンセリングによる総合支援 					
					
3. 産地販売力強化					
<ul style="list-style-type: none"> 多様な販売チャネル(契約取引、ふるさと納税、宅配など) 消費者に選ばれる産地戦略 (かごしまブランド団体認定等を活用した認知度向上) 					
					

26